

令和5年 第10回

教育委員会定例会会議録

令和5年10月18日

中央区教育委員会

令和5年第10回教育委員会定例会会議録

開会日時 令和5年10月18日(水) 午後2時00分

場 所 中央区役所 8階 大会議室

出席委員 中央区教育委員会 教育長 平林治樹
委 員 渥美哲夫
委 員 坂本順子
委 員 小川将
委 員 伊東佳子

説明のために出席した事務局職員

庶務課長 俣野修一
放課後対策担当課長 黒田彰
学務課長 鷺頭隆介
学校施設課長 岡地貴志
指導室長 小林傑
統括指導主事 清水浩和
幼児教育担当専門幹 中島由美子
図書文化財課長 植木良則
教育センター所長 熊木崇

説明のために出席した区長部局職員

文化・生涯学習課長 森下康浩

書 記 中央区教育委員会事務局

教育行政推進係長 一瀬知之
教育行政推進係員 伊藤めぐみ

開 議 午後2時00分平林教育長開会宣言

会議規則第30条による署名委員

教育長 平林治樹
委 員 渥美哲夫

- 日程第1 議案第46号【非公開審議】
審査請求に対する裁決について
- 日程第2 議案第47号
中央区立晴海図書館の指定管理者候補事業者の決定について
- 日程第3 報告事項
各課事業報告について

図書館文化財課長 今回の指定管理者の候補事業者となる図書館流通センターですけれども、こちらについては、現状の京橋図書館以下、区内3図書館の指定管理者となっている事業者でございます。

今回の選定結果につきまして、中央区といたしましては、京橋図書館を中央館として、地域館を含めて一括での運営をしていただくことを、まず最初の前提としまして、図書館流通センターにお声かけをして応募いただいたというところでの審査となっております。

実績につきましては、他区においても委託や、指定管理としての実績は多数あるところがございますけれども、区内の今までの図書館の実績が勘案ないし審査の対象となっていることと理解しております。

以上です。

小川委員 それを踏まえて、図書館に対するご意見、区民の声も出てきていたりしますので、今の図書館の問題点であるとか、その改善点といったものが内容の中にあつたのかどうかお伺いいたします。

図書館文化財課長 選定委員会の席の中で、特に現状の図書館についての何か課題であるとか、そういった部分で指摘等を受けたところはなかったものと記憶しております。

本の森ちゅうおうといった、区として大変大きな施設を新しく導入し、そちらの運営の面でも高い評価を委員の方からいただいております。

以上です。

小川委員 晴海は今後人が非常に増えるというところもあり、新たな図書館を運営していくとなると、最初の立ち上げの大変さというのがあると思いますので、その辺りを踏まえまして、良好な運営をお願いしたいと思います。

教育長 ありがとうございます。

ほかにご質問ございますでしょうか。

渥美委員 図書館流通センターさんに、当初から、区立4図書館一括で運営をお願いしていたということは、他の事業者さんにはお声がけしなかったということでしょうか。

図書館文化財課長 指定管理者につきましては、中央区内の図書館を、京橋図書館が中央館、月島・日本橋を各地域館と位置づけまして、全体での運営管理をしていただくということが当初より前提とされておりましたので、晴海図書館につきましても、そこに追加される晴海地区という新しい地域の地域館として位置づけるべく、初めに図書館流通センターにお声かけをしたというところがございます。

渥美委員 ありがとうございます。

教育長 図書館流通センターには、晴海図書館ができるということを前提の指定管理を請けていただいておりますので、今回は、改めて晴海図書館ができたこと

によって、指定管理ということ指定するための手続ということでご理解をいただければと思います。当初から図書館流通センター1社にお願いするというのは約束事だったということでございます。

それでは、ほかにご質問がなければ、本件を可決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 　ご異議ないものと認めます。よって、議案第47号は原案のとおり可決されました。

次に、日程第3、報告事項に入ります。報告事項(1)について報告願います。

庶務課長 　「令和5年第三回区議会定例会(9月議会)一般質問(概要)」について、資料1により報告。

教育長 　それでは、ただいまの報告につきまして、ご質問等ございましたらお伺いいたします。

坂本委員 　ご説明ありがとうございました。質問の校務支援システムの導入に向けて、整備を進めておられるということになりますが、各教員の先生方は様々な働き方の問題も出ているところで、負担軽減ということはあるかと思うのですが、具体的にはどういう運用をするのか、導入するにあたってのメリットはどういった所にあるのか教えていただければと思います。

学務課長 　ただいま委員のお話の中で言及されておりましたように、教員の働き方改革に大きく資するものと考えております。具体的なお話を申し上げますと、現在学校では、校務系のシステムで使う端末と、学習系で使うシステムの端末は全く別々のものを活用しています。これが、クラウド上で両方とも運用することができることによりまして、端末をまず1台にすることが可能になります。そして、その端末について、学校長の許可を得た上であれば、校外へ持ち出すことが可能となります。

つまり、具体的な例で申しますと、長期休業中などに自宅において、これまでのような学習系だけでなく、校務系のほうのシステムにもアクセスをすることができ、業務を行うことができるということで、教員の多様な働き方に資するものと考えているところでございます。

以上でございます。

坂本委員 　ありがとうございました。利便性と、それから情報管理というのは、ある意味、表裏一体のところがあるかと思っておりますので、同時並行的に情報管理につきましても、併せてご検討いただければと思います。

もう1点ですけれども、これはご質問というよりは意見になってしまうかと思いますが、アレルギー対応研修などのお話もございました。やはり、生命・

身体に関わることというのは全ての学校生活の根幹かなと思っておりまして、ぜひそういったところも時折、思い起こすことができるように、研修にも今後も進めていただきたいと思います。

以上です。

教 育 長

ありがとうございます。

ほかにご質問ございますか。

渥美委員

システムを導入すると、その後システムをアップグレードであったり、バッテリー稼働や通信料といった大変な費用がかかってくるかと思うのですが、予算面についてはいかがでしょうか。

指導室長

予算面につきましては、今現在のG I G Aスクール構想でも国の補助がかなり出ております。予定としては令和7年度に、大幅なシステム改修や、タブレット端末の更新が出てきます。

一般的にNEXT G I G Aスクール構想と言われておりますが、令和7年度のシステム改修では、新たに大規模な予算が必要となります。こうしたことから、費用面を含めて、国が補助するよう働きかけをしております。

以上でございます。

渥美委員

ありがとうございます。

教 育 長

全国的な問題になるので、恐らく補助がないと、地方は特に難しいと思います。

どこまで補助を認めるかとか、レベル感はきっと色々あるのでしょうかけれども、特別区教育長会からとしても、補助金はしっかり認めていただくという要望が全国から出てきますので、これからも国に働きかけをしていきます。

渥美委員

ありがとうございます。

小川委員

3ページの6番のところに関連してなのですが、ICT教育推進委員会を設置しているというところなのですが、先生方のリテラシー向上を図る目的があるのかなと感じているのですが、実際に配置されて、数値面で上がってきている部分があればお聞かせください。それから、ICTを推進していくにあたり、教員の先生方の知識レベルを平準化していく必要があるかと思うのですが、こういった対応を取られているのかをお聞かせいただければと思います。

指導室長

まず、学校現場の視点から申しますと、ICT支援員といった専門的な能力を持った方が各学校を回り、支援してもらうことが必要だと思っています。

中央区の場合、全国よりも上回る基準で、各学校にICT支援員を派遣しております。一つの成果としては、令和3年4月からG I G Aスクール構想、1人1台タブレットを導入したことに伴い、ICT支援員を手厚く派遣しましたが、現在、年々派遣回数を減らしています。これは、教員自身がICTの知

識やスキルを身に付けてきた成果だと思っております。

今後も、ICTの支援体制について、校長会とも連携を取りながら、どのくらい支援が必要なのか見極めていく必要があると思っております。

別の観点から申しますと、学校の若手の先生はICTについて詳しく、若手の先生がベテランの先生に教える体制もあり、授業力において相乗効果も出てきております。

先ほど申しましたNEXT GIGAスクール構想がスタートした際には、改めてICT支援員の派遣を手厚くするなど検討していく必要があると思っております。校務支援システムも変わり、それから、1人1台タブレットの環境も変わり、クラウド化も進んでいきます。そういったところで、学校の現場の教員の過度な負担にならないように、先手を打って、支援体制を組んでいくことを考えています。

以上でございます。

学務課長

ICT推進委員会におけます数値化という部分のお話もございましたので、そちらについて少々補足をさせていただきたいと思えます。

ICT教育推進委員会の中で、具体的に各校に対して調査を行っていただき、その中で、指導力の向上ですとか、活用の具合等の答えをいただいているところですが、この調査についてはセキュリティ面中心のリテラシーの向上ということでの数値を取っているところでもございまして、令和3年度から令和4年度にかけて、数値上昇がどれだけ教育の指導力向上に寄与しているのかというところは、なかなか一概に出にくいところはあるんですけども、全体的な数字の部分で申しますと、やはり令和3年度より令和4年度になった際に、この辺りの数値の高まりというのは記録しているところでもございます。

こういったセキュリティ面中心のリテラシーということになりますが、そこも含めまして、教員の指導力、また、こういったICT端末の活用力の向上という部分については、引き続き私も取り組んでまいりたいと存じます。

以上でございます。

小川委員

ありがとうございます。教員の方へのアンケートであるとか、そういったところを継続的にやっていただきながら、リテラシーの均一化というんですかね、向上と、ばらつきがないようにしていただきたいと思えます。

実際に、最初は大変ですけども、やはりこういった取組を進めていくと、かなり残業時間の削減につながります。そのために行う部分も当然あるので、利点をしっかりと把握していただいて、皆様に推進していただければと思います。

教育長

ありがとうございます。

ほかにご質問ございますでしょうか。

(「なし」の声あり)

- 教育長 よろしいでしょうか。
- 指導室長 それでは、報告事項(2)、(3)について、一括で報告願います。
- 指導室長 「令和5年度学習力サポートテストの結果に基づく授業改善に向けた取組について」について、資料2により報告。
- 指導室長 「令和5年度区立小・中学校児童・生徒体力調査の結果について」について、資料3により報告。
- 教育長 それでは、ただいまの報告につきまして、ご質問等ございましたらお伺いたします。
- 伊東委員 学力調査について、まずお伺いしたいのですけれども、課題があるところを抽出していただきまして、理科、社会、多くのものが、知識問題が課題ということになっているようなのですが、それぞれ恐らく理科も社会も、知識問題と、資料を生かして思考力を見る問題と分かれていると思うのですが、思考力を見る問題の平均点や、知識と思考力のバランスなどはわかるものなのでしょうか。
- 指導室長 これにつきましては難しく、思考力を問う問題というのは、知識があった上で、思考をするということになります。そもそも、知識が定着していないのか、思考の場面で解けないのかなど、どこでつまづいているかが重要です。そうしたところであると、今回顕著に出ているのは知識問題の部分ではあるのですが、思考力についての部分でも課題はあると思っております。
- 指導室長 子どもたちが解けていない問題のどこでつまづいているのかは個々によって違いますので、知識が無いから思考まで辿り着かないのか、あるいは、知識はあるけれども思考ができていないのかなど各学校や各個人の学力調査の分析をする必要があると思っております。
- 指導室長 以上でございます。
- 伊東委員 ありがとうございます。知識のインプットは絶対に必要だと思いますので、難しいバランスだと思いますけれども、思考力も伸ばしながら、是非知識の確実な定着に取り組んでいただければと思います。
- 指導室長 GIGAスクール構想が始まりまして、知識の定着ということであれば、ドリルソフトは、ある程度有効であると思っております。授業で習ったことやできなかったところをもう一度振り返る際に、繰り返し学習ができますので、そういったものも活用しながら、知識の定着を確実に図っていきたいと考えております。
- 伊東委員 ありがとうございます。
- 伊東委員 GIGAスクール構想は全国で行われていると思います。中には、そのことによって飛躍的に知識が伸びている地域はあるのでしょうか。

指導室長 実際にはGIGAスクール構想が全国的に始まったのは令和3年からということもありますので、きちんとしたデータはまだありません。子どもたちの学力向上も、授業だけではなく、家庭学習で取り組んでいる場合もありますし、塾の影響もあります。

こうしたことから、GIGAスクール構想のみが学力向上に結び付いているとは言えないですが、ドリルソフトが有効かどうかということについては、今いろいろなところで研究は開かれているところです。

私も先日、ドリルソフトの家庭学習での活用という研究を見てきたのですが、子どもたちに自主学習を促すだけよりも、教員が取り組んだ状況を見てあげて、しっかりとフィードバックしてあげてやることによって、効果が増すといった結果も出ております。

ドリルソフトはどのぐらい有効なのかというところについては、特に、学力が低い子にとってみれば有効だという一方で、学力が高い子はドリルソフトを使わなくてもできてしまうというところがありますので、引き続きこれらの研究結果は見ていきたいと考えております。

以上でございます。

伊東委員 ありがとうございます。

教育長 ほかにご質問ございますでしょうか。

小川委員 中学校3年生で、英語が16.1ポイント、全国正答率を上回っているのですが、6年生が4.1ポイント、中学校1年生が4.8ポイント上回り、中学2年生から急に上回ってくるというところで、ほかと比べてここが優れているとか、何か特色があつて、こういう数値につながっているという分析はできているのでしょうか。

指導室長 指導室では、経年で見ていくことが大切であると考えており、同一集団で見て分析を行っております。

中学校3年生を見ますと、実は1年生の時点から、全国と比べて高い数字を出しており、さらに2年生から3年生を比較するとさらに伸び率が上がっています。特に今年の中学校3年生の集団は、英語の成果が顕著にあらわれており、オールイングリッシュの授業などを行っている成果かと分析しているところでございます。

以上でございます。

小川委員 ありがとうございます。

教育長 ほかにご質問よろしいでしょうか。

坂本委員 学力調査についての、小学校6年生の国語について特記して取組例を挙げいただいているところですが、こちらは具体的にはどういったところにつまずき感があつたのか、教えていただければと思います。

指導室長 これにつきましては、端的に申しますと読解力かと思っております。情報からどのように読み解いていくのかというところに課題があるかなと思っておりますので、具体的にこういう問題なんですというところはお示しはできないのですが、小学校6年生でこのような結果が出たということで、読解力というのは国語の授業の中でとても大切な部分でありますので、改めて小学校1年生からの国語の授業の見直しなどにも役立てていきたいと考えております。

以上です。

坂本委員 ありがとうございます。昨今、例えばY o u T u b eとかでも、倍速を上げて結論に早く行きたいという、どうしてもそういうのが当たり前のようになっていくように思うんです。言葉を読んでいくと、それなりの時間もかかりますし、今おっしゃられたように、読解力というのは一朝一夕に身につくものではないですね。本当に忍耐を要する、難しいところかと思うのですけれども、そういったものも大事にしていただきたいと思いますので、お尋ねしました。ありがとうございました。

教 育 長 ほかにご質問ございますでしょうか。

伊東委員 生活習慣の中で、中学生になると途端に朝食を食べなくなるというのが気になっておまして、そこで体格を見てみると、身長は特に女子で、小学校、中学校、どちらも全国を上回っているのに、体重が小学校5年生からどんどん落ちていて、全国に比べて少ない。要は、少し痩せの傾向になっている子が増えているのかなと思います。

朝食を毎日食べていますかという質問項目の男女間の差というのは見ているのでしょうか。

指導室長 これにつきましては、男女というところでは見ていないところでございます。

体重は、例えば極端に痩せの傾向にあるというわけではないですが、確かに委員がおっしゃるとおり、痩せの傾向はあるかと思えます。ただ、朝食を食べるということは、基本的な生活習慣の中でエネルギーを取るために必要ということで、決して体重を増やすためだけではなく、毎朝食べて、脳を活性化させて学習に取り組むことが大事であると指導しております。

保健体育の時間や、あるいは栄養士による保健の授業で、改めて子ども自身が生活習慣を見直し、朝食の大切さを学び、意識を高めていきたいと考えているところです。

以上でございます。

伊東委員 ありがとうございます。よろしく願いいたします。

教 育 長 ほかにご質問ございますでしょうか。

渥美委員 質問ではないのですが、朝食を毎日食べている子どもを増やすためには、保

護者の協力も必要かと思います。子ども自身に自分で朝食を食べていくように促すだけではなく、保護者の方が子どもと一緒に朝食を摂るように働きかけることができれば、さらに生活習慣が改善されるかと思います。

指導室長

今委員がおっしゃったことは、とても大切なことだと思います。保護者会の中でも、いろいろ話し合う場面もございます。意識調査の中で学校の課題が出ていますので、それをテーマに話し合い、家庭にも当事者意識を持ってもらうことは重要です。家庭に働きかけたい部分については、校長先生を通してPTAとも連携しながら、こちらから指示をしたいと考えております。

以上でございます。

渥美委員

よろしくをお願いします。

教育長

ほかにご質問ございますでしょうか。

小川委員

調査の結果はよく分かりました。先ほどお話がありました傾向は、クロス集計をしていただいたら、傾向というのは恐らく出ているはずなので、体力面のところも踏まえて両方でクロス集計をやるとなると、かなりの作業になるとは思うのですけれども、ご尽力いただければと思います。

朝食を食べれば頭が回りますというのは昔から言われている話なので、その傾向がこういった分析をすることによってこういう結果が出ましたというところまで、しっかりと保護者の方にも分かっていたいただくためにも、さらなるご努力をお願いしたいと思います。

指導室長

この学習力サポートテストで、区に提供されるものの中には、クロス集計をされているものがございます。生活習慣等の意識調査が、学力のA層、B層、C層、D層で別れて表記されているものもありますので、今後も分析し活用してまいります。

小川委員

よろしくお願ひいたします。

教育長

ほかにご質問ございますでしょうか。

(「なし」の声あり)

教育長

よろしいでしょうか。

それでは、続きまして、報告事項(4)について報告願います。

文化・生涯学習課

「令和6年新年こども羽根つき大会(第68回)の実施について」について、資料4により報告。

教育長

それでは、ただいまの報告につきまして、ご問等ございましたらお伺ひいたします。

坂本委員

ご企画ありがとうございます。質問ではありませんけれども、先日は、土砂降りの大雨で、とても残念だったのですが、安全面を配慮して子どもフェスティバルが開催できなかったのも、ぜひまたこの企画を通して、皆さんがチーム一丸となって戦うことの楽しさなどを味わっていただければと願っております。

す。

以上です。

文化・生涯学習課長

ありがとうございます。

教育長

ほかにご質問はよろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

教育長

よろしいでしょうか。

それでは続きまして、報告事項(5)について、担当各課長から報告願います。

学務課長

「意見・要望」の1件目について、資料5により報告。

指導室長

「意見・要望」の2件目について、資料5により報告。

教育長

それでは、ただいまの報告につきまして、ご質問等ございましたらお伺いいたします。

(「なし」の声あり)

教育長

よろしいでしょうか。

それでは、本日の日程は終了となりますが、委員の皆様からご意見等ございましたらお伺いしたいと思います。

(「なし」の声あり)

教育長

よろしいでしょうか。

それでは、ご意見等がないようでございますので、本日の委員会はこれにて閉会いたします。ありがとうございました。

午後3時20分 教育長 閉会宣言

署名委員